

TOSHIBA

東芝電気温水器(家庭用) 取扱・工事説明書

ステンレスホット

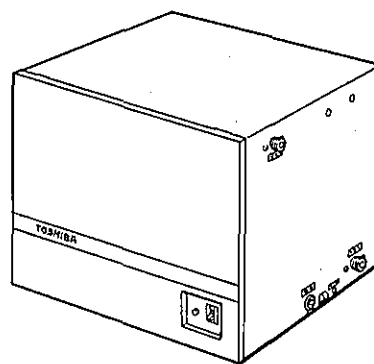
形
名

屋間電力用・屋内形・元止式・AC100V

HPL-251W・HPL-251W-L

屋間電力用・屋内形・先止式・AC100V

HPL-252WP



※使用前にお買いあげいただきました温水器の形名を
おたしかめください。

*このたびは東芝電気温水器をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

*この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる
まえにこの取扱・工事説明書を良くお読みになり、十分に理解し
てください。

*お読みになったあとは、いつも手元においてご使用ください。

*保証書は必ずお受け取りください。

元止式とは

- 給水側に水栓があり、給湯口は開放しなければならないため専用水栓が必要です。
- 専用水栓と結ぶだけの簡単配管です。

先止式とは

- 給湯側の先端に水栓があり、給水回路は密閉されるので市販の水栓が取付可能です。
- 減圧弁方式の配管が必要です。

もくじ

取扱説明書

安全上のご注意	1
各部のなまえとはたらき	6
使いかた	7
点検、お手入れのしかた	9
このようなときには	11
仕様	12



工事説明書

工事の前に	13
工事について	14
保証とアフターサービス	19

取扱説明書 安全上のご注意

ここに示した注意事項は、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明




表示	表示の意味
 警告	"取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定されること"を示します。
 注意	"取扱いを誤った場合、使用者が傷害(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定されること"を示します。

*1: 重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

*3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

図記号	図記号の意味
 禁止	○は禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指示	●は指示する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注意	△は注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

■据付前の注意事項

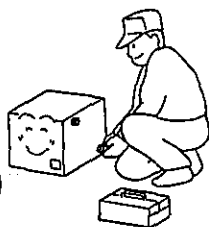
警告

据付・配管・電気工事は、必ずお買いあげの販売店または工事に依頼すること

ご自分で据付工事をされますと、火災・感電・水漏れの原因になります。



専門業者



混合水栓・アース棒など、別売り部品も東芝品を使用すること

純正以外の部品を使うと、事故・故障の原因になります。



純正部品

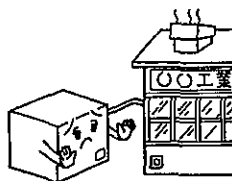


業務用・改造後の使用はしないこと

事故・故障の原因となります。



禁止



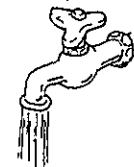
注意

水は水道法に規定された水質基準に適合する水を使用すること

適合しないと故障・水漏れの原因になります。



上水道



■据付上の注意事項

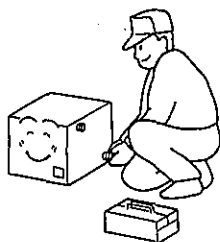
⚠警告

据付・配管・電気工事は関連する法規と、この取扱・工事説明書に従って行うこと

工事に不備があると、火災・感電など事故の原因になります。



専門業者



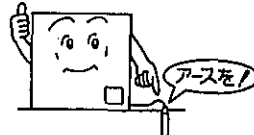
アース工事を必ず行うこと

故障・漏電したときに感電事故の原因になります。

ガス管・水道管への接続や共用アースをしないでください。



アース工事

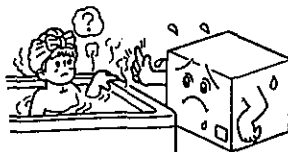


電気温水器を浴室など湿気の多い所に据え付けないこと

火災・感電の原因になります。



禁止

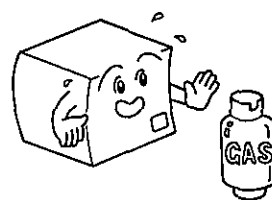


電気温水器の近くにガス類や引火物をおかないこと

発火の原因になります。



禁止

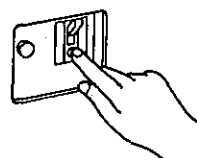


漏電遮断器の動作確認をすること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のとき感電の原因になります。



動作点検



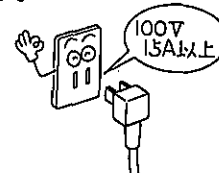
100V、15A以上のコンセントを専用で使用する

本商品の定格は100V、10Aです。

他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



専用コンセントを使用

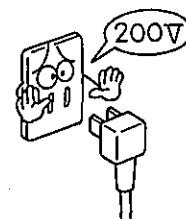


交流100V以外では使用しないこと

火災・感電の原因となります。



200V禁止



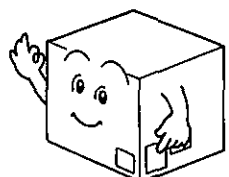
⚠注意

定格を確認すること

設置場所（屋内形を屋外用に）、やその他の定格を間違えると故障・事故の原因となります。



定格確認



凍結防止対策を行うこと

配管が破損してやけどをすることがあります。



施工確認



安全上のご注意 (つづき)

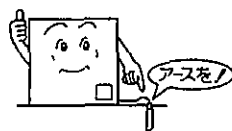
■据付後の確認事項

⚠ 警告

アース工事がされているか確認すること
故障や漏電のときに感電
の原因になります。
アースの取り付けは販売店にご
相談ください。



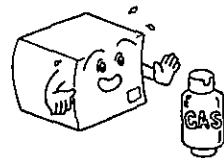
アース工事



温水器の近くにガス類や引火物が置かれていないことを確認すること
発火の原因になります。



施工確認



⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること
配管が破損してやけどを
することがあります。



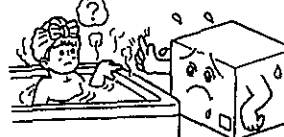
施工確認



温水器が浴室など湿気の多いところに取り付けられていないことを確認すること
火災・感電
の原因になります。



施工確認



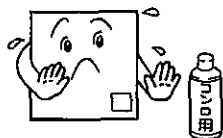
■使用上の注意事項

⚠ 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと
発火の原因
になります。



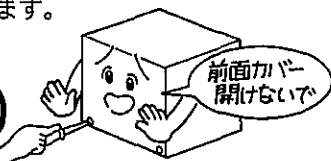
禁止



前面カバーは開けないこと
感電の原因になります。



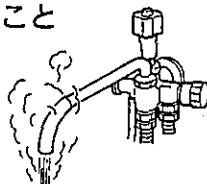
禁止



給湯・排水時は熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること
混合水栓を開いた直後
は水がでますが、すぐ
に熱湯に変わります。



手をふれない



給湯時は混合水栓本体に手を触れないこと
やけどをすることがあります。
給湯温度によっては
混合水栓本体が
あつくなります。



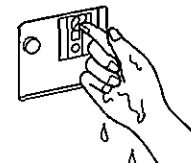
手をふれない



漏電遮断器にぬれた手で触れないこと
ショート・感電の原因になります。



禁止



⚠ 警告

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないこと

感電・ショート・発火の原因になります。



使用禁止

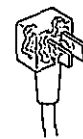


電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭くこと

ほこりが付着したり接続が不完全な場合は感電や火災の原因になります。



ほこりをとる



⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

- ・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
 - ・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



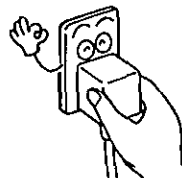
沸騰後飲用

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜くこと

感電やショートして発火することがあります。



プラグを持って抜く



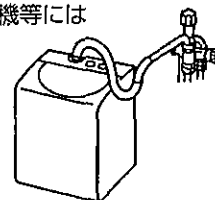
他の器具には直結しないこと

自動給水形の洗濯機や食器洗い機等には直結しないでください。

直結すると過圧逃し弁から水または湯が出たり、水漏れ事故の原因になります。



禁止

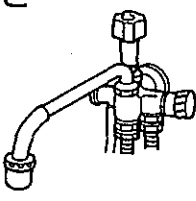


お湯の出口をふさがないこと

蛇口の先端をふさいだりホース・浄水器・泡沫器具等をつないだりしないでください。水漏れ事故の原因となります。



禁止



電気温水器の上に乗ったり、配管に力を加えないこと

本体が転倒したり、配管が破損してやけどなどの事故の原因になります。とくに、幼児・子供に注意してください。



禁止



■点検・お手入れの注意事項

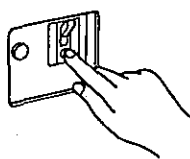
⚠ 警告

漏電遮断器の動作を確認すること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電の原因になります。



動作点検

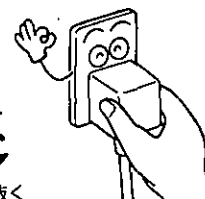


お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜くこと
またぬれた手で抜き差ししないこと

感電・ショート・発火の原因になります。



プラグを抜く



安全上のご注意 (つづき)

⚠警告

逃し弁の点検時には、排水管に手を触れないこと〈先止式:HPL-252WP〉
やけどをすることがあります。



手をふれない



⚠注意

水漏れを点検すること

とくに集合住宅では、
漏水が階下へ被害を
与えます。日常確認
してください。



漏水点検



タンクの熱湯排水は直接しないこと

やけどをすることが
あります。水で
薄めてから流し
てください。



熱湯排水禁止



1か月以上使用しないときは漏電遮断器を
「切」にして電源プラグを抜いてタンクの排
水をする

水質が変化する
ことがあります。



水抜き

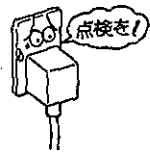


長期間電源プラグをコンセントに
差し込んだままご使用のときは
月に1度点検すること

接触が悪くなり異常発熱して
発火することがあります。



プラグの点検



■修理・譲渡等の注意

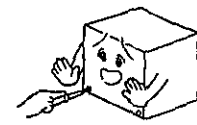
⚠警告

修理技術者以外の方は絶対に分解したり修理・改造は行わ
ないこと

発火したり異常動作してけがをすることがあります。



分解禁止

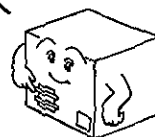


⚠注意

このお使いになっている商品を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく
所有者となる方が安全な正しい使い方を知るために、
この取扱・工事説明書を商品本体の目立つところに
テープ止めしてください



説明書添付



■異常時の注意

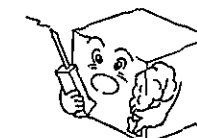
⚠警告

異常時(こげ臭い、過圧逃し弁あるいは過圧防止弁からの水漏れ等)は、漏電
遮断器のレバーを下げて電源を「切」にして電源プラグを抜いて、
お買いあげの販売店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口へ
連絡すること

異常のまま使用されますと故障や感電、火災の原因になります。



電源を切る



各部のなまえとはたらき

安全上のご注意

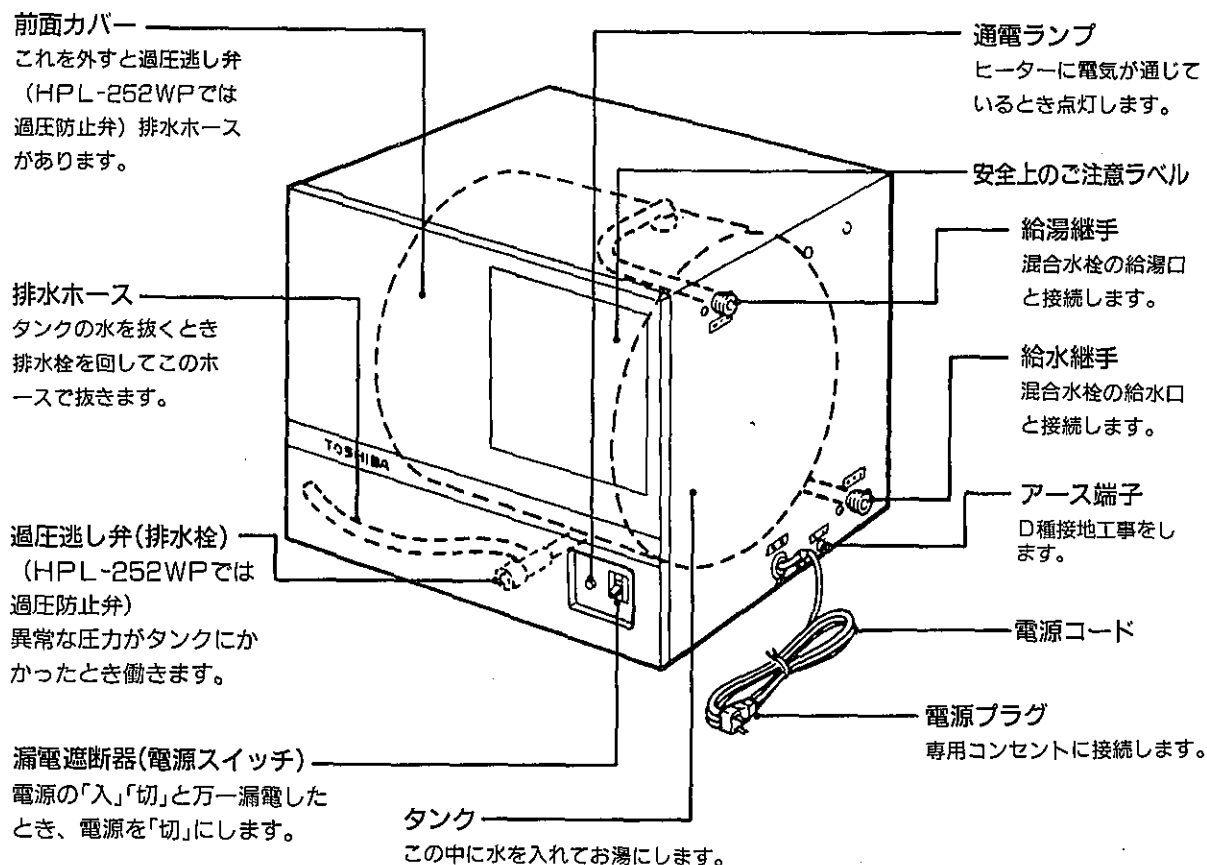
*アースは、万一漏電した場合、電気を大地に逃すため、電気温水器のアース端子と地中に埋設されたアース棒または、家屋に取り付けられたアース端子にアース線で接続することにより構成されます。

*電気温水器本体に「安全上のご注意ラベル」が貼り付けてありますのでお読みいただき、確認してください。

外観および内部

- この取扱・工事説明書は、HPL-251W・HPL-252WP（右取り）の製品を示します。
HPL-251W-L（左取り）の場合は、給水継手・給湯継手・電源コード・アース端子が左側の対称の位置にあります。

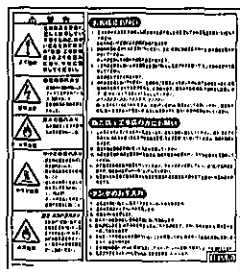
は各部のなまえと



安全上のご注意ラベルについて

とくに重要と考えられる事項について「安全上のご注意ラベル」に記載してあります。

部品コード: 302 17 068



お願い

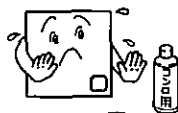
本体のラベルが剥がれてなくなったり、文字が消えて読めなくなった場合には、ラベルを販売店から、部品コードを指定して購入し、元の位置に貼ってください。

使いかた

⚠ 警告

温水器の近くに
ガス類や引火物
を置かないこと

発火の原因になり
ます。



禁止

タンクが満水になってい
ることを確認してから通
電すること

- ・満水にしないで通電すると負圧により、タンクが破損し、やけどのおそれや水漏れの原因となります。
- ・水を入れないで通電すると故障の原因になります。



満水確認

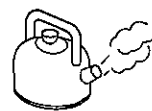
⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

- ・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
- ・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。

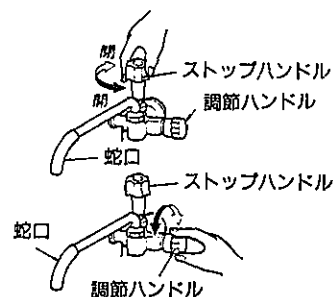
固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



沸騰後飲用

給水のしかた

- (1) 専用止水栓を開きます。
- (2) 混合水栓のストップハンドルを開き、調節ハンドルを手前にいっぱい回します。
- (3) 水道の水圧により異なりますが、約5分でタンクが満水になり蛇口から水が出てきます。
- (4) タンク及び配管内のごみ・油などを洗い流すために約5分水を流します。
- (5) ストップハンドルを閉じて給水を止めます。



元止式の場合、ストップハンドルを閉じてもすぐに湯が止まらないことがありますが異常ではありませんので、必要以上にハンドルをしめ過ぎないでください。

通電のしかた

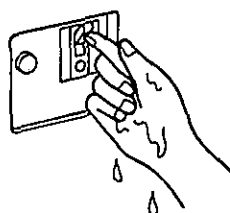
⚠ 注意

漏電遮断器のレバーは、ぬれた手で
さわらないこと

ショート・感電の原因
になります。

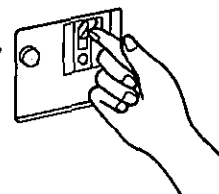


禁止



通電は必ず給水をしてから行ってください。

- (1) 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- (2) 漏電遮断器を「入」にします。
通電ランプが点灯します。



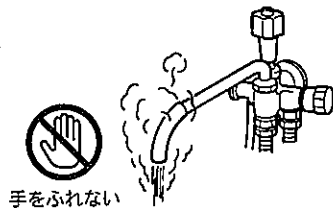
- (3) 約2時間(水温15℃の場合)で、約85℃に沸き上がり、通電表示ランプが消灯します。

お湯の出しかた

⚠警告

給湯・排水時は熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること

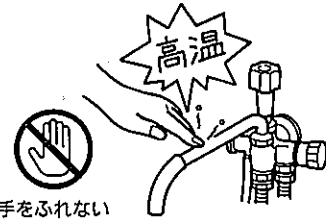
混合水栓を開いた直後は水がでますが、すぐに熱湯に変わります。



手をふれない

給湯時は混合水栓本体に手を触れないこと。やけどをすることがあります

給湯温度によっては混合水栓本体があつくなります。



手をふれない

〈元止式するとき〉

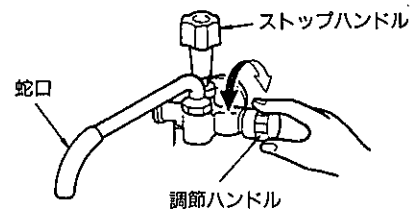
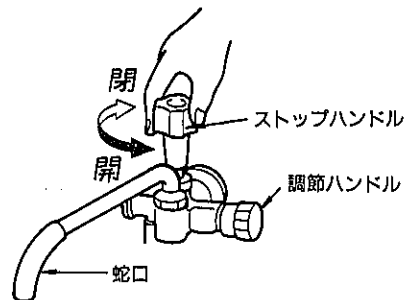
- 混合水栓の蛇口からお湯が滴下しますが故障ではありません。お湯が沸くとき、水が膨張するためですので、ストップハンドルを無理に締めすぎないでください。
- 混合水栓のストップハンドルを閉めたあと、お湯が止まるまで数秒かかります。これは元止式のためですので、ストップハンドルを無理に締めすぎないでください。
- 蛇口をふさいだり、他の器具と直結しないでください。水漏れ事故の原因となります。

- (1) 混合水栓のストップハンドルを開きます。
蛇口からお湯が出てきます。

最初に熱湯がでてくることがありますのでやけどに気をつけてください。

- (2) 調節ハンドルでお好みの温度に調節します。
あとは使用したお湯の量だけ給水され、タンク内のお湯の温度が低くなると、自動的にお湯を沸き上げます。

タンク内の沸き上がったお湯を使いきりますと水になります。
この場合は沸き上がるまで待ってからご使用ください。



お湯の上手な使いかた

一回の沸き上げで使用できるお湯の量は限られています。お湯は大切にお使いください。

● お湯は容器に受けて使ってください

流し洗いは、お湯不足の原因になります。



点検、お手入れのしかた

事故を防止するために下記の点検を必ず行ってください。

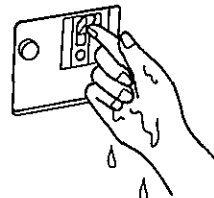
⚠ 注意

漏電遮断器にぬれた手で触れないこと

ショート・感電の原因になります。



禁止

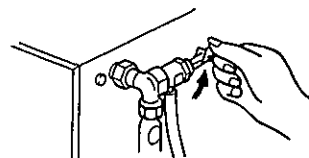


逃し弁を点検すること〈先止式：HPL-252WP〉

配管漏れによりやけどをすることがあります。



動作点検



点 検

1 漏電遮断器の動作確認を

⚠ 警告

漏電遮断器の動作を確認すること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のとき感電の原因になります。

漏電遮断器は、万一漏電したとき自動的に電気を切するための安全装置です。

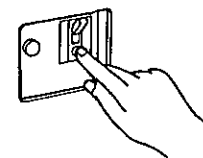
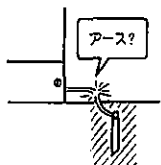
●年に2～3回は、漏電遮断器の動作確認を通電時間内に、つぎのように確認してください。

(1) アース線が切れていないか確認してください。

(2) 漏電遮断器のテストボタンを押してください。

漏電遮断器のレバーが「切」(OFF)になり通電ランプが消えれば正常です。

(3) テストのあとは、必ずレバーを「入」(ON)にもどしてください。



2 逃し弁の動作確認を〈先止式：252WP〉

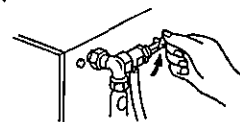
⚠ 警告

逃し弁点検時は、排水管に手を触れないこと

やけどをすることがあります。

年に2～3回は、逃し弁のレバーを2～3回上げ下げして動作をチェックしてください。

●レバーを上げたとき排水し、下げたとき排水が止まれば正常です。(排水が確認できないときは水の音で排水されたことを確認してください)



●逃し弁の弁部に水アカの付着や、異物のカミ込みがあると、逃し管より常にお湯が流れ出て、湯量不足の原因となります。

●逃し弁は水からお湯になるときの膨張分を排水し、タンクを守る安全装置です。逃し弁が正常に動作しないと、タンクが変形し水漏れや故障の原因になります。

3 寒冷地では凍結防止を

⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること

配管が破損してやけどをすることがあります。

- 室温が0℃以下になるおそれのあるときは、工事説明書に従い、凍結防止を行ってください。
- 水が凍るような時期になりましたら、凍結防止ヒーターの差し込みプラグを、100ボルトのコンセントに差し込んでください。また、凍結の心配のない時期になりましたら、差し込みプラグをコンセントから抜いてください。



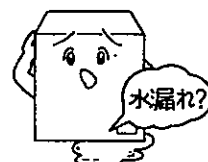
4 水漏れの点検を

⚠ 注意

水漏れを点検のこと

とくに集合住宅では、漏水が階下へ被害を与えます。日常確認してください。

- 電気温水器を設置した床面に水が漏れていないか確認してください。



- 減圧弁・逃し弁は消耗部品です。定期的に交換が必要です。交換時期は水質によって異なりますので販売店にお尋ねください。

お手入れのしかた

1 タンク内の掃除を

⚠ 注意

タンクの熱湯排水は直接しないこと

やけどをすることがあります。お湯を使い終わってから排水してください。

使用しているうちに水アカや沈殿物がタンクの底にたまります。きれいなお湯をお使いいただくために、必ず年に2～3回はつぎの手順で排水栓から水アカなどを出してください。

タンク内のお湯を排水する場合にはお湯を使い終わってタンク内が水のときに行ってください。

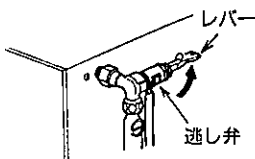
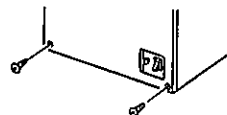
- (1)漏電遮断器を「切」にして電源プラグをぬきます。

- (2)専用止水栓をとじます。

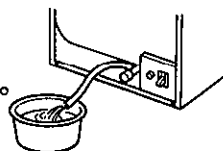
- (3)前面カバーを止めている2本のねじを取り外して、前面カバーをはずします。

- (4)バケツか洗面器を用意します。

- (5)逃し弁のレバーを上げます。(HPL-252WPのみ)

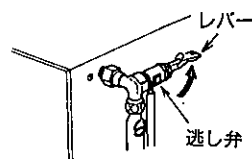


- (6)排水ホースの先端を手前に引き出して洗面器の中に入れ、排水栓の先端のツマミを左に回すと排水できます。



- (7)タンク内のそうじの場合、排水がきれいになったら、排水栓のツマミを右に回して水を止めます。

- (8)排水ホースの先端より水が漏れていないことを確認してから、排水ホース先端を内部に収納し、前面カバーを取付けます。



- (9)専用止水栓を開いて給水します。

- (10)逃し弁から水が出てきたらレバーを下げてください。(HPL-252WPのみ)

- 再びご使用になるときは7ページの「給水のしかた」によりタンクが満水になったことを確かめてから、通電準備をしてください。
- 排水ホースが短かすぎるときは、排水栓に市販のビニールホース(内径10mm)を接続してください。
- ホースを接続して排水する場合は、ホースの途中または先端が、電気温水器より高い位置になりますと排水できません。

点検、お手入れのしかた

点検、お手入れのしかた (つづき)

2 ストレーナーの掃除 (先止式:HPL-252 WP)

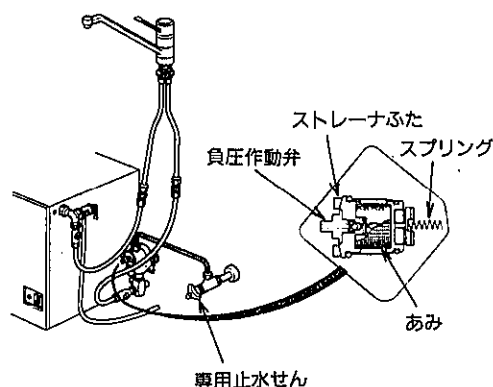
湯および水の出が悪くなったときは、つぎの方法で減圧弁のストレーナーの掃除を行ってください。

(1)漏電遮断器を「切」にして電源プラグをぬきます。

(2)専用止水栓をとじます。

(3)減圧弁のストレーナーのふたをはずし、あみを掃除します。(水を流しながらブラシ等で良く洗います)

(4)もとどおりに組込み専用止水栓を開きます。



3 お使いにならないとき

- 長期間お使いにならないとき

⚠ 注意

1 か月以上使用しないときは漏電遮断器を「切」にして電源プラグを抜いてタンクの排水をすること

水質が変化することがあります。

- 排水のしかたは10ページの「タンク内の掃除を」をご覧ください。
- 1 か月以内の比較的短期間の場合は漏電遮断器を「切」にして電源プラグを抜いてください。

4 断水、近くで水道工事が行われるとき

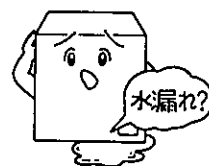
- 工事が行われる前に専用止水栓を閉じてください。お湯が濁る原因になります。
- 解除されたら専用止水栓および混合水栓を開いて、水がきれいになったのを確かめてから電気温水器を使用してください。

5 過圧逃し弁について

- 過圧逃し弁排水口より水 (または湯) が漏れている場合は、配管システムまたは電気温水器に異常があります。

漏電遮断器を「切」にし、電源プラグを抜いて専用止水栓を閉じてお使いになるのをやめてください。

お買いあげの販売店に連絡をして修理を受けてください。



定期点検のおすすめ

電気温水器を長期間安心してお使いいただくために、専門の技術者がお客様に代わって細かく定期点検、部品の交換をいたします。詳しくはお買いあげの販売店にお問い合わせください。

このようなときには

修理を依頼される前につぎのことを点検してください。

症 状	点検するところ	直 し か た
お湯が出ない お湯の出が悪い	<ul style="list-style-type: none"> ●専用止水栓は開いていますか。 ●断水ではありませんか。 ●減圧弁のストレーナーがつまっていますか。 ●給湯管がつまったり、折れたり、または凍結していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●閉じていたら、開いてください。 ●水道局へ問い合わせ、断水が終るまで待ってください。 ●11ページのストレーナーの掃除を行ってください。 ●お買いあげの販売店にご相談ください。
お湯が沸かない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグがコンセントから抜けていませんか。 ●漏電遮断器が「切」になっていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグをコンセントに差し込んでください。「切」になっていたら「入」にしてください。 ※2度、3度と「切」になる場合には、販売店にご相談ください。
お湯がぬるい	<ul style="list-style-type: none"> ●温度調節レバーの位置は適当ですか。 ●いつもにくらべてお湯を使いすぎていませんか。 ●逃し弁から排水口にお湯が流れていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●温度調節レバーを高温側へ回してください。 ●沸き上がるまで待ってください。 ●10ページのタンク内の掃除を行ってください。
よくれたお湯がでる	<ul style="list-style-type: none"> ●近くで断水や水道工事はありませんでしたか。 ●タンク内の掃除をしていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水がきれいになったのを確認してから電気温水器をお使いください。 ●10ページのタンク内の掃除を行ってください。
過圧逃し弁から水が出る	<ul style="list-style-type: none"> ●給湯管がつまったり、折れたり、または凍結していませんか。 ●混合水栓の蛇口の先端がつまっていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お買いあげの販売店にご相談ください。 ●蛇口の先端のつまりを取り除いてください。
蛇口からお湯がたれる (元止式)	タンク内の膨張水が蛇口から出てきます。故障ではありません。	
開閉ハンドルを開めてから、すぐにお湯がとまらない (元止式)	元止式のため、開閉ハンドルを開めたとき、お湯がとまるまで数秒かかります。故障ではありません。	

点検、お手入れ

仕 様

項目	形名	
	HPL-251W・HPL-251W-L	HPL-252WP
	元止式・屋内用	先止式・屋内用
タンク容量	25L (リットル)	
定 格	AC100V 1kW	
沸上がり湯温	約85℃	
質量(満水時)	約9 (34)kg	
外 形	幅	410
	奥 行	350
	高 さ	390
安 全 装 置	自動温度調節器・温度過昇防止器・漏電遮断器・過圧逃し弁 (過圧防止弁)	
配 管 口 径	給水・給湯G1/2 (PF1/2 オネジ)	

このようなときには

仕 様

工事説明書

工事の前に

工事をされる方へ

- 工事の前に「据付上の注意事項」をよくお読みのうえ安全に正しく据え付けてください。
- 先止式と元止式がありますので、形名を確認した上、形名にあった標準配管例に準じて施工してください。

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱・工事説明書にそってお客様に使いかた・点検・お手入れのしかたを説明して、据付作業確認書（取扱・工事説明書に同封）に必要事項を記入してください。
- また、この取扱・工事説明書・据付作業確認書ともお客様に保管していただくよう依頼してください。

付属品

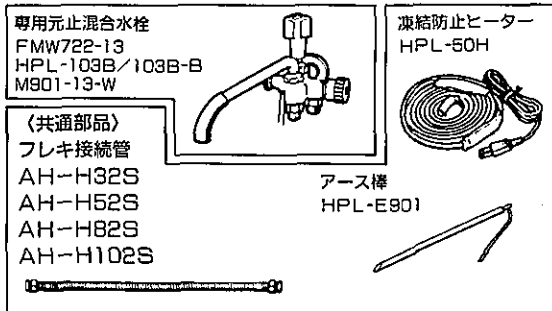
保証書 取扱・工事説明書 排水用ホース（φ10×Q300） 据付作業確認書

別売り部品

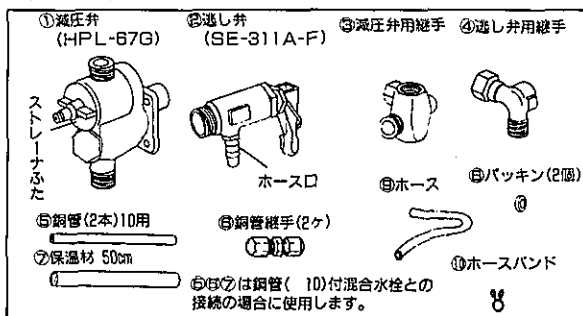
- 電気温水器に必要な部品は別売りになっていますので、配管方法や使い方にあわせて使用してください。

- 純正品以外の部品は使用しないでください。仕様が異なり、故障・事故の原因となります。

〈元止式〉HPL-251W・HPL251W-L

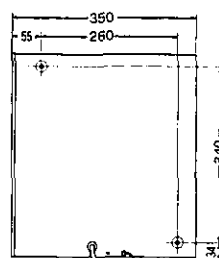
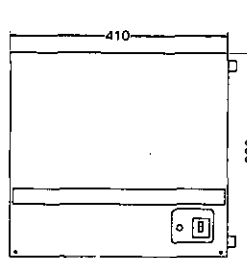


〈先止式〉HPL-252WP 専用配管キット

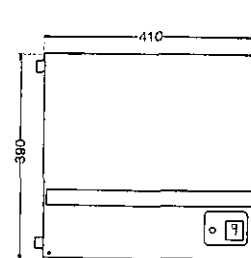
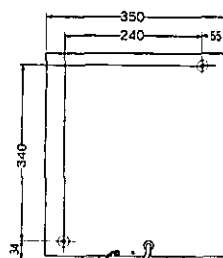


外形寸法図

●HPL-251W・HPL-252WP



●HPL-251W-L



工事について

据付工事

●据付場所

- この電気温水器は屋内形ですから、屋外へは絶対に据え付けしないでください。
- 電気温水器と建物の隙間寸法については各地区の火災予防条例によって施工してください。
- この電気温水器は、社団法人日本電機工業会の組込み形等電気機器の自主試験基準適合品で離隔距離は右表のとおりで、組み込みが可能です。

(単位: mm)

上方	側方	前方	後方
0 以上	0 以上	0 以上	0 以上

設置基準適合

- 他の電気工事や排水工事がしやすいように据え付けてください。
- 後日、保守・点検が容易なように据え付けてください。
- 洗面台の内部に据え付ける場合は、底板の強度の確認を行い、不十分な場合は補強をしてください。

配管工事

上水道を使用する場合は当該水道局の条例に基づき認定工事業者がつきにより施工してください。

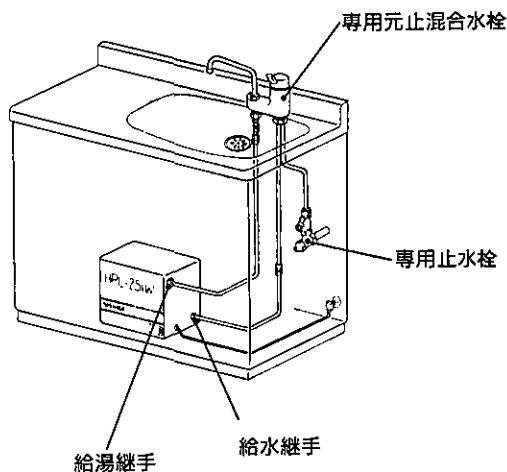
●配管工事のしかた

- 配管工事は、据付地区の気候条件にあわせた標準配管例に準じて行ってください。
- 配管材料は切断後、必ずバリ取りをしてから使用してください。

標準配管例

〈元止式 HPL-251W
HPL-251W-L の場合〉

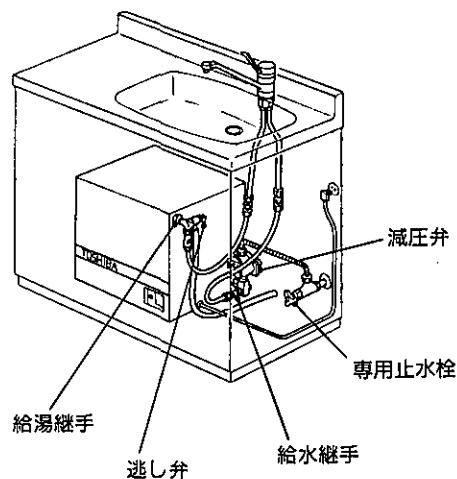
- 下図はHPL-251W(右取り)の配管例で、HPL-251W-L(左取り)の配管はこの図を参考にして対称に施工してください。



〈先止式: HPL-252WP の場合〉

- 必ず、別売りの専用配管キットを使用してください。
(専用配管キット: HPL-10PKA-R)

※減圧弁・逃し弁は消耗品です。
定期的に交換が必要です。

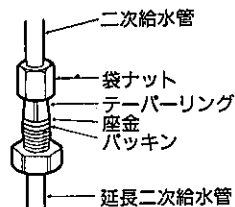


工事について (つづき)

●給水側・給湯側の配管

〈元止式：HPL-251W、HPL-251W-L〉

- 従来ご使用の水栓を取りはずして別売りの専用元止混合水栓を取り付けてください。
- 混合水栓の二次給水管と延長二次給水管を接続してください。

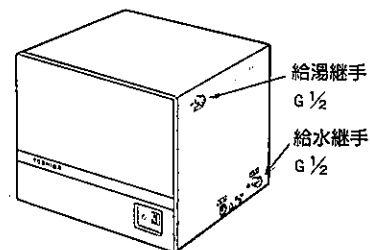


- 延長二次給水管を本体の給水継手に接続してください。
- 減圧弁による先止式配管はしないでください。タンクが変形したり、水漏れ事故の原因となります。

〈先止式：HPL-252WP〉

- 水道メーターを過ぎた所に専用止水栓を設けてください。保守・点検に必要です。
- 減圧弁を給水継手に接続してください。このとき減圧弁のストレーナーふたは温水器の正面側に向くようにしてください。
- 混合水栓は必ず逆止弁付のものを使用してください。
- 逃し弁を給湯継手に接続してください。このとき逃し弁のホース口が下を向くようにしてください。

- 継手は右図のようになっていますので間違わないように施工してください。



●排水の配管〈先止式：HPL-252WP〉

- ホースを逃し弁のホース口に取り付け、ホースバンドで固定してください。
- 通電中は逃し弁から膨張水が出ます。必ずホース

を排水溝に導いてください。このとき、ホースの先端は排水溝の水面から離し、水につからないようにしてください。

(排水口空間50mm以上のこと)

●保温工事

- 水道配管やバルブ類には保温材を巻いてください。寒冷地では別売りの凍結防止ヒーターを巻くか、配管内の水が抜けるように別途水抜き設備を設けてください。

- 混合水栓の接続管には据付地区の気候条件にあわせて、保温材または別売りの凍結防止ヒーターを巻いてください。

電気工事

電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき
指定工事業者が次のとおり施工してください。

●アースの接続

- 電源を接続する前に、電気設備技術基準および内線規程に従った、D種接地工事〔接地抵抗100オーム以下〕をしてください。
- 別売りのアース棒と温水器本体のアース端子を、600ボルトビニール絶縁電線〔φ1.6以上〕で接続します。
- アース棒とアース線の接続は、中継端子〔スリーブ〕または半田付〔できるだけロウ付〕で確実にを行い、接続部を絶縁テープでよく巻いてください。
- アース棒はなるべく水気のあるところで、ガス、酸などのために腐食するおそれのない場所を選んで接地してください。
- アース棒は地面から出ないようにしてください。アース棒は地中30cm以上の深さに打ち込んでください。
- アース線は足などに引っかからないように固定してください。また、アース線が損傷を受けるおそれのある場所は、合成樹脂管などで保護してください。

- 施設後は、接地抵抗が100オーム以下であることを必ず確認してください。〔接地抵抗の測定は、接地抵抗計をご使用ください。〕
- アース棒1本で規定の抵抗値〔100オーム以下〕がとれないときは、2～3本のアース棒を使って約2メートル間隔に施設し、並列接続して規定の値にしてください。

●電源の接続

- 電源は交流100ボルトを使用してください。
- 100ボルト、15アンペア以上のコンセントを専用で使用してください。
- 化粧洗面台内に温水器を設置する場合は、背板が側板に穴をあけ、電源コード、アース線を取り出してください。
- 電源のコンセントは、電源コードの出口より高い位置のものを使用してください。低いと水がコードを伝わってコンセントにかかるおそれがあります。

チェックポイントと試運転

●配管工事後のチェック

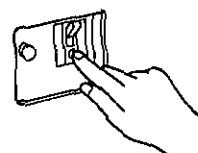
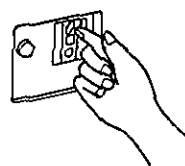
- 給水して、電気温水器や接続部からの水漏れがないか。
- 蛇口の先端に泡沫器具など他の器具を接続していないか。
- 元止式に減圧弁による先止式配管をしていないか。
- 先止式の減圧弁、逃し弁の取付方向、取付位置は正しいか。

●電気工事後のチェック

- アースの接続は確実にしてあるか。
- 接地抵抗は100オーム以下か。
- 専用コンセントは100ボルト、15アンペア以上か。
- 漏電遮断器にゆるみはないか。
- 電源コードをたばねたり、上に物がのっていないか。

●試運転

1. 電源プラグをコンセントに差し込み漏電遮断器のレバーを「入」(ON)にしたとき通電ランプが点灯するか。
2. テストボタンを押してレバーが「切」(OFF)になり通電ランプが消灯するか。



メ モ

メ モ

保証とアフターサービス (必ずお読みください)

保証書 (別添)

- この東芝電気温水器には、「保証書」を別途添付しております。
- 保証書は、必ず「お買いあげ日、販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- この東芝電気温水器の保証期間は、お買いあげいただいた日から1年です。ただし、タンク（内部のヒーターは除きます）の保証期間は3年です。
- その他、詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品の最低保有期間

- 弊社は、電気温水器の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低6年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買いあげの販売店、東芝家電ご相談センターまたは東芝家電修理ご相談センターにご相談ください。
- ご転居あるいは贈答品などで保証書に記入してあるお買いあげの販売店に修理がご依頼できない場合には、東芝家電修理ご相談センターにご相談ください。

修理を依頼されるときは (出張修理)

- ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、漏電遮断器を「切」(OFF)にし、電源プラグを抜いて専用止水栓を閉じてからお買いあげの販売店にご相談ください。
- 修理は専門の技術が必要です。

保証期間中は

- 修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

- 修理すれば使用できる場合にはご希望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品 名	電 気 温 水 器		
形 名	H P L - □□□□□□□□		
お買いあげ日	年 月 日		
故 障 の 状 況	できるだけ具体的に		
ご 住 所	付近の目印等も併せてお知らせください		
お 名 前	電 話 番 号	訪 問 希 望 日	
便 利 メ モ	お買いあげ店名		
	電 話 番 号		
お買いあげ店名を記入されておくとう便利です			

修理料金のしくみ

修理代は技術料・部品代・出張料から構成されています。

技 術 料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
部 品 代	修理に使用した部品代です。
出 張 料	商品のある場所へ技術者を派遣する料金です。



愛情点検

長年ご使用の電気温水器の点検をぜひ！

このような
症状は
ありませんか。

- お湯の出が悪い。
- お湯が早くなる。
- 逃し弁の逃し管から常にお湯が流れている。
- 設置場所が常にぬれている。
- 時々、漏電遮断器が働く。
- その他の異常、故障がある。

ご使用
中 止

故障や事故防止のため、漏電遮断器を「切」にし、電源プラグを抜いて専用止水栓を閉じてから、必ずお買いあげの販売店に点検修理をご相談ください。

東芝機器株式会社

電化給湯システム営業部
〒110-0015 東京都台東区東上野5-24-8
(住友不動産上野ビル6号館11F)
TEL (03)5806-9043

ご購入年月日	年 月 日
ご購入店名	

お客様へ…… おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

T.I(M)機 ☆THCI(H)